

第1項 全体評価

1 評価結果

北九州市立病院機構における令和3年度の業務実績の全体評価は、「中期計画の実現に向けて計画以上に進んでいる」とする。

2 評価理由

第1期中期計画期間の3年目である令和3年度の業務実績の大項目評価について、第1、第2、第4は「評価A」、第3は「評価B」、となった。

新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、第二種感染症指定医療機関である医療センターだけでなく、八幡病院においても、積極的かつ機動的に対応し、新型コロナウイルス感染症患者の重点医療機関として中心的な役割を果たした。

また、理事長を中心に、地方独立行政法人制度の特長を活かした自立的な運営を目指した取組みを着実に実施し、「業務運営の改善及び効率化」の項目について、評価が向上した。

このため、令和3年度の業務実績は「中期計画の実現に向けて計画以上に進んでいる」と評価した。

なお、財政内容について、営業収支・経常収支・単年度資金収支が2年連続黒字となったが、新型コロナウイルス感染症に関する国・県の補助制度に依るものであり、補助制度の縮小・廃止を見据えて、引き続き、自立的な経営に向けた体質改善を進めていくとともに、長期収支の均衡を図っていく必要がある。

3 大項目別の評価結果一覧

大項目	評価項目数	小項目評価数					平均	大項目評価
		評価5	評価4	評価3	評価2	評価1		
第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	12	1	4	7	0	0	3.5	A
第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	8	0	4	4	0	0	3.5	A
第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	4	0	0	4	0	0	3.0	B
第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置	3	1	1	1	0	0	4.0	A
合計	27	2	9	16	0	0	-	-

【大項目評価】

- 評価S：評価Aを満たした上で、特筆すべき進捗が認められる（市長が特に認める場合）
- 評価A：中期計画の実現に向けて計画以上に進んでいる（小項目評価結果の2以下が無く、平均が3.5以上）
- 評価B：中期計画の実現に向けておおむね計画どおり進んでいる（小項目評価結果の2以下の項目評価数が2以下で、小項目評価結果の平均が3以上）
- 評価C：中期計画の実現のためにはやや遅れている（小項目評価結果の平均が3未満）
- 評価D：中期計画の実現のためには重大な改善すべき事項がある（市長が特に認める場合）

【小項目評価】

- 評価5：年度計画を大幅に上回って実施している。
- 評価4：年度計画を上回って実施している。
- 評価3：年度計画を順調に実施している。
- 評価2：年度計画を十分に実施できていない。
- 評価1：年度計画を大幅に下回っている。

第2項 項目別評価（評価理由）

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

感染症医療において、新型コロナウイルス感染症に対し、第二種感染症指定医療機関である医療センターに加えて、八幡病院においても積極的かつ機動的に対応し、新型コロナウイルス感染症の重点医療機関として適切に病床を確保し患者を受け入れ、患者の手術や分娩、ワクチンの集団接種に医師スタッフを派遣するなど、中心的な役割を担った。

救急医療において、八幡病院は、新型コロナウイルス感染症拡大の中、救急車応需率等がやや回復した。救急科医師1名の増員や令和4年度からの循環器内科医3名の増員決定は評価できる。さらには、北九州医療圏における救急医療体制の中核施設として、24時間365日救急患者を断らず受け入れ、適切な医療を提供する救命救急センターの役割を担うため、引き続き、内科系医師などの医師確保を期待する。

医療の充実において、医療センターでは、地域連携がん診療拠点病院として、手術支援ロボット「ダヴィンチ」や放射線治療機器「リニアック」の活用など高度で専門的な医療を提供するための取組みや、緩和ケアセンター、薬剤師外来の開設、チーム医療の強化・充実、がん患者や家族の支援機能の充実、認知症ケアチームの立ち上げなどを実施した。

八幡病院では、新型コロナウイルス感染症の影響により、小児感染症患者が減少している中、「小児救急・小児総合医療センター」を中心に必要な医療を提供した。

医療の質の確保のため、両病院とも人材の確保や育成に向けた取組みを進めるとともに、クリニカルパス件数・適用率の向上、チーム医療の推進や医療安全対策など、年度計画に基づいた取組みを進めた。また、治験等件数が大幅に増加するなど、医療に関する調査・研究に積極的に取り組んだ。

市民・地域医療機関からの信頼確保については、八幡病院で紹介率が向上するなど、連携が進んでいる。以上のことから、「中期計画の実現に向けて計画以上に進んでいる」と評価する。

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

「経営本部会議」や「経営戦略会議」を効果的に開催するなど、理事長のリーダーシップの下、主体的かつ機動的な意思決定システムが構築され、マネジメント体制が強化されてきた。また、自立的な業務運営体制の構築を進めるとともに、経費削減・抑制対策についての取組みを進めた。

両病院とも、施設基準の取得や適切な診療報酬の確保について、取組みが進んでいる。

一方で、新型コロナウイルス感染症の影響による市民の受診控えや診療制限等により患者数・病床利用率は例年に比べ減少しているが、柔軟な病床運営やコロナ禍での稼働率向上に取り組んだ。

このため、「中期計画の実現に向けて計画以上に進んでいる」と評価する。

第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

新型コロナウイルス感染症に関する国・県の補助制度に依り、営業収支及び経常収支の黒字化、単年度資金収支の黒字化、年度末資金剰余の増加を達成できた。

国や県の補助金制度が縮小・廃止となる場合を見据えて、引き続き、自立的な経営に向けた体質改善や長期的な資金収支の均衡を図っていく必要がある。

このため、「中期計画の実現に向けておおむね計画どおり進んでいる」と評価する。

第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置

看護専門学校において、卒業生の市内就職率が、令和5年度の目標値を上回り、地域の看護師養成機関として、教育の質を確保しつつ、効率的な運営を行っている。

新型コロナウイルス感染症対策では、市からの要請に基づき、市との連携の下、積極的な対応を行い、市内医療機関の中心的役割を担ったことから「中期計画の実現に向けて計画以上に進んでいる」と評価する。

地方独立行政法人北九州市立病院機構 令和3年度の業務実績に関する評価結果(案)

項目	令和3年度の主な取組、成果等	機構 評価	市 評価	市評価コメント
第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項				
1 政策医療の着実な実施				
(1) 感染症医療	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第二種感染症指定医療機関である医療センターだけでなく、八幡病院においても、県の重点医療機関として積極的に入院患者の受入れを実施し、市内医療機関の新型コロナウイルス対策の中核的な役割を担った</li> <li>●新型コロナ患者の長期入院等に適切に対応するため、各病棟からの看護師等の応援体制を構築し、適切に運用した</li> <li>●新型コロナに対応できる職員の育成のため院内研修及び訓練を継続的に実施</li> <li>●新型コロナ対策について、福岡県・北九州市の要請に応じて病床確保やワクチン接種等に対応</li> </ul>	5	5	<p>○新型コロナウイルス感染症に対し、第二種感染症指定医療機関である医療センターに加えて、八幡病院においても積極的かつ機動的に対応し、新型コロナウイルス感染症の重点医療機関として適切に病床を確保し患者を受け入れたほか、新型コロナウイルス感染症患者の手術や分娩、ワクチンの集団接種会場への医療スタッフ派遣を行い、中心的な役割を果たした。</p> <p>○感染拡大に対応するためにハード・ソフト両面での整備を進めたこと、長期間に及び病院スタッフの迅速な対応など多大な貢献を踏まえ、評価「5」とした。</p>
(2) 周産期医療	<ul style="list-style-type: none"> <li>●医療センターにおいて、周産期母子医療センターとして、他病院で受入困難な新型コロナウイルスに感染した妊婦の分娩を適切に実施。24時間体制でハイリスク妊娠や新生児に高度で専門的な医療を提供し、北九州地域における中心的な役割を担った</li> <li>●周産期医療の適正化に向けて、関係機関との調整に取組み、地域全体の医療提供機能を踏まえた運用を行った</li> <li>●分娩室の陰圧化などの感染防止対策を行い、新型コロナウイルス患者の分娩を適切に実施(分娩件数15件) ・母体搬送件数54件 NICU受入患者数2,031件</li> </ul>	4	3	<p>○新型コロナウイルス感染症拡大の中、母体搬送件数は減少[R1:98件→R2:70件→R3:54件]したが、NICU受入患者数は[R1:2,476件→R2:1,958件→R3:2,031件]やや回復した。</p> <p>○新型コロナウイルスに感染した妊婦を北九州地域の他の周産期母子医療センターとともに受入れ、15件の分娩を実施した。周産期母子医療センターを24時間体制で運営し、高度で専門的な医療を提供しているため、評価「3」とした。</p>
(3) 小児救急を含む救急医療	<ul style="list-style-type: none"> <li>●八幡病院において、「救命救急センター」「小児救急センター」としての役割を担った</li> <li>●救命外来、小児科外来、小児集中治療室(PICU)、無菌室等の施設・設備を適切に活用して医療を提供</li> <li>●救急科及び関連診療科の医師確保に向けて、理事長・院長等による大学医学部等への働きかけ、医師紹介会社の情報提供活用</li> <li>●初期研修医5名のほか、他病院の研修医を受入れ、人材育成を通じた救急医受入れ体制を強化</li> <li>●救急救命士を4月から1名増加し3名体制とした</li> <li>●内科系医師の不足、新型コロナウイルス対応による救急受入制限、小児患者の大幅な減少はあったものの、可能な限り患者を受け入れることに努め、救急車応需率は80%以上を維持 ・救急車応需率 81.7% ・救急受入件数 3,463件 ・救急患者手術件数 341件 ・小児救急ウォークイン件数 20,326人</li> </ul>	3	3	<p>○新型コロナウイルス感染症拡大の中、救急受入件数[R1:3,604件→R2:3,053件→R3:3,463件]、救急車応需率[R1:94.0%→R2:80.6%→R3:81.7%]、小児救急ウォークイン患者数[R1:30,402人→R2:15,769人→R3:20,326人]はやや回復した。</p> <p>○救急科医師1名の増員に加え、令和4年度から循環器内科医3名の増員が決定したことは、評価できる。新型コロナウイルス感染症の重点医療機関のひとつとして、患者受入等していることを考慮し、評価「3」とした。</p> <p>○北九州医療圏における救急医療体制の中核施設として、救命救急センターの役割を担うためには、24時間365日救急患者を断らず受け入れ、適切な医療を提供する体制を整備する必要がある。3次救急医療機関として、引き続き内科系医師など医師の確保や院内体制の見直し及び充実・強化に向けた取組みを期待する。</p>
(4) 災害時における医療	<ul style="list-style-type: none"> <li>●災害時に備え、災害医療研修センターにおける人災育成に向けた取組みを実施</li> <li>●海上保安庁や市消防局ヘリコプターによる離陸訓練を実施、患者受入れ等で屋上ヘリポートを適切に活用</li> <li>●災害時の適切な対応に向けて、両病院において、各種訓練や研修等を適切に実施</li> <li>●災害時の非常用電源や備蓄資材については、国の基準に基づいて必要な整備を行った</li> <li>●BCP委員会において、業務継続計画(BCP)に基づいた対策の検討や訓練に取り組んだ</li> </ul>	3	3	<p>○災害時における医療について、災害発生時に備えた研修・訓練等の取組みを進め、年度計画を順調に実施しているため、評価「3」とした。</p>

項目	令和3年度の主な取組、成果等	機構 評価	市 評価	市評価コメント																																								
2 医療センター及び八幡病院の特色を活かした医療の充実																																												
(1) 医療センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>●がんゲノム医療連携病院として、九州大学病院との連携体制を構築し、エキスパートパネルを円滑に実施 従前の腫瘍細胞に加え、令和3年度から新たに保険適用された血液を検体とする検査を開始</li> <li>●手術支援ロボット「ダヴィンチ」を活用した手術件数が順調に増加(外科36件、泌尿器科97件、産婦人科17件)</li> <li>●がん看護外来:患者の意思決定支援・不安緩和、がん患者指導管理料の算定件数増加</li> <li>●緩和ケアセンター:支援機能の充実に努め、がん患者指導管理料、緩和ケア診療加算・外来緩和ケア管理料の増加</li> <li>●薬剤師外来:専門知識と経験のある認定薬剤師を増員するなど機能を強化</li> <li>●がん相談支援センター:相談対応ツールを充実、連携ネット北九州の活用促進に向けたPR活動</li> <li>●救急医療:順次受入体制を強化し、受入件数を増加</li> <li>●糖尿病センター:糖尿病と糖尿病合併症の診療体制を強化、令和4年度からの肥満治療チームの立ち上げ準備</li> <li>●せん妄や認知症に対応するため、令和3年度に常勤精神科医を採用して認知症ケアチームを立ち上げ ・がん患者数 5,097人 ・放射線治療件数 10,666件 ・化学療法件数 17,321件 ・連携ネット北九州新規登録患者数 1,233件</li> </ul>	4	4	<p>○地域がん診療連携拠点病院(高度型)として、新型コロナによる受診控えの影響を受けつつも、医療センターの特色であるがん診療の高度で専門的な医療の提供・充実を進めた。受け入れたがん患者数[R1:4,869人→R2:4,844人→R3:5,097人]、化学療法件数[R1:15,538件→R2:16,632件→R3:17,731件]は増加した。</p> <p>○緩和ケアセンターや薬剤師外来、チーム医療の充実など、がん患者や家族の支援機能を充実させる取組みや、がん治療に関する地域医療機関との連携の強化を進めた。</p> <p>○救急医療について、救急部の開設など体制強化を図り、救急受入件数が増加した。糖尿病センターでは、糖尿病と糖尿病合併症の診療体制の強化を行うとともに、せん妄や認知症に対応するため、「認知症ケアチーム」を立ち上げ、体制の強化を行った。</p> <p>○以上のことから、評価「4」とした。</p>																																								
(2) 八幡病院	<ul style="list-style-type: none"> <li>●小児の専門性の高い分野について、常勤医のほか、外部医療機関からの診療応援により、医師の確保に努めた</li> <li>●救急外来、小児科外来、小児集中治療室(PICU)、無菌室等の施設・設備を適切に活用して医療を提供 介護している家族の休息等を目的とした小児患者のレスパイト入院の受入れ</li> <li>●横断的に組織した消化器・肝臓病センターにおいて、ハイブリッド手術室を活用した医療を提供 ・小児科患者数(外来) 41,371人 ・小児科患者数(入院) 25,099人</li> </ul>	3	3	<p>○新型コロナウイルス感染症の影響による小児感染症患者が減少している状況[小児科患者数(外来)R1:51,412人→R2:32,424人→R3:41,372人、小児科患者数(入院)R1:37,255人→R2:21,894人→R3:26,099人]の中で、「小児救急・小児総合医療センター」を中心に必要な医療を提供しており、評価「3」とした。</p>																																								
3 医療の質の確保																																												
(1) 人材の確保・育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>●全職種:職種ごとに複数回の採用試験実施 医師:医師事務作業補助者の定数増員、人材の確保が困難な場合は、派遣枠を拡大して対応 看護師:看護師の前倒し採用、看護補助者の人員確保、事務作業サポート職(病棟クラーク)の定数増、認定看護師の専従配置 医療技術職:柔軟な職員採用により、経験者を含めた多様な職種の人材を確保 事務職員:プロパー職員の採用を進め市派遣職員を減少、新規採用職員研修や階層別研修を実施、院内教育を推進</li> <li>●関係大学との連携強化に向けて、理事長・院長等による訪問活動を積極的に実施</li> <li>●日本看護協会が提示するクリニカルラダーを参考に、習熟レベルに応じた研修プログラムを検討し、令和4年度から導入決定</li> </ul> <table border="1" data-bbox="388 1197 1852 1344"> <thead> <tr> <th colspan="2">(医療センター)</th> <th colspan="2">(八幡病院)</th> <th colspan="2">(医療センター)</th> <th colspan="2">(八幡病院)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・看護実習受入数</td> <td>258人</td> <td>67人</td> <td>・専門医資格取得数</td> <td>184件</td> <td>103件</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・指導医資格取得件数</td> <td>135件</td> <td>46件</td> <td>・初期臨床研修医</td> <td>8人</td> <td>5人</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・専攻医</td> <td>18人</td> <td>12人</td> <td>・専門看護師</td> <td>1人</td> <td>1人</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・認定看護師</td> <td>22人</td> <td>18人</td> <td>・診療情報管理士数</td> <td>14人</td> <td>4人</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	(医療センター)		(八幡病院)		(医療センター)		(八幡病院)		・看護実習受入数	258人	67人	・専門医資格取得数	184件	103件			・指導医資格取得件数	135件	46件	・初期臨床研修医	8人	5人			・専攻医	18人	12人	・専門看護師	1人	1人			・認定看護師	22人	18人	・診療情報管理士数	14人	4人			3	3	<p>○「医療スタッフの確保」や「事務職のプロパー職員の採用」、「新規採用職員や階層別の研修」、「職場環境の整備」、「医療スタッフの専門性や医療技術向上のための教育研修制度の充実など、年度計画を順調に実施しており、評価「3」とした。</p>
(医療センター)		(八幡病院)		(医療センター)		(八幡病院)																																						
・看護実習受入数	258人	67人	・専門医資格取得数	184件	103件																																							
・指導医資格取得件数	135件	46件	・初期臨床研修医	8人	5人																																							
・専攻医	18人	12人	・専門看護師	1人	1人																																							
・認定看護師	22人	18人	・診療情報管理士数	14人	4人																																							
(2) 医療の質の確保、向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>●医師、看護師、理学療法士等の多職種がチームとして連携し、集中治療室における早期離床、リハビリテーションに取り組んだ 独法化後、医療センターでがんゲノムセンター、がんセンター、糖尿病センター設置</li> <li>●クリニカルパスの将来的な目標適用率を45%に設定、パスの作成と活用について積極的に働きかけ</li> <li>●手術支援ロボット「ダヴィンチ」を新たに産婦人科で「子宮全摘術」を開始したことにより手術件数が増加 ・医療チーム編成状況 認知症ケア、感染防止対策、栄養サポート、医療安全管理、呼吸ケアサポート、褥瘡(じょくそう)管理 緩和ケア(医療センターのみ)、排尿ケア(八幡病院のみ) ・クリニカルパス件数 医療センター 334件 八幡病院 310件 ・クリニカルパス適用率 医療センター33.6% 八幡病院39.3%</li> </ul>	3	3	<p>○チーム医療の推進への取組みや高度な医療機器の計画的な整備・更新、クリニカルパスの活用による医療の標準化に取り組んでいる。</p> <p>○年度計画を順調に実施していることから、評価「3」とした。</p> <p>○地域支援病院の責務に第三者評価の取得が追加されており、早期の適切な対応を期待する。</p>																																								
(3) 医療安全の徹底	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域の医療機関や行政職員を対象に、新型コロナウイルスを含めた感染防止対策研修を実施</li> <li>●医療安全ラウンドを月1回実施、各種研修は主にeラーニングを活用して適切に実施</li> <li>●多職種参加のRCA分析を実施し、分析結果を防止対策に反映しマニュアルや手順を変更</li> <li>●業務継続計画(BCP)の見直しによる危機管理体制強化、医療センターに患者相談担当官配置(医療訴訟・クレーム対応体制強化) ・研修等実施回数 医療センター 44回 八幡病院43回 ・インシデント・アクシデントレポート提出回数 医療センター1,495回 八幡病院1,132回</li> </ul>	4	4	<p>○感染リスクの高い新型コロナウイルス感染症に対して、患者受入体制や院内感染防止などについて適切な予防策を講じた。</p> <p>○病院機構全体の危機管理体制を強化するため、業務継続計画(BCP)の見直しや医療センターに患者相談担当官を配置するなど、医療訴訟・クレーム対応の体制を強化した。</p> <p>○医療安全への対応が進んでいることから評価「4」とした。</p>																																								

項目	令和3年度の主な取組、成果等	機構 評価	市 評価	市評価コメント																					
(4) 医療に関する調査・研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>●医療センターの治験研究推進室の機能を機構本部に移管し、新たに臨床研究推進センターを立ち上げ、両病院の治験・臨床研究の情報一元化(治験件数の大幅増加に伴い、令和4年度は約3,000万円の増収見込み)</li> <li>●治験・臨床研究の推進に向けて、専門職員を増員したほか、施設や設備等を充実による体制整備の実施</li> <li>・治験等実施件数 医療センター286件、八幡病院54件</li> </ul>	4	4	○病院機構本部に両病院の治療・臨床研究を一元管理する臨床研究推進センターを立ち上げるなど、医療に関する調査・研究に積極的に取り組み、治験等実施件数[医療センターR1:109件→R2:181件→R3:286件、八幡病院R1:31件→R2:21件→R3:54件]が大幅に増加していることから、評価「4」とした。																					
4 市民・地域医療機関からの信頼の確保																									
(1) 患者サービスの向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>●外部講師やeラーニングを活用した接遇研修を実施</li> <li>●セル看護方式やPNSの導入に向けたマニュアル作成やモデル病棟での試行実施し、評価・改善</li> <li>●院内のレイアウト変更や設備等の整備により、受付・診察の待ち時間の短縮</li> <li>●医療センターの女性専用病棟:乳腺外科、産婦人科、泌尿器科にて円滑に運用</li> <li>●多職種介入による入退院支援体制の強化</li> <li>●パンフレットやホームページで診療内容や治療実績等の情報提供、ホームページは随時見直しを実施</li> </ul> <table border="1" data-bbox="415 609 1825 756"> <thead> <tr> <th></th> <th>(医療センター)</th> <th>(八幡病院)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・接遇研修回数</td> <td>2回</td> <td>0回</td> </tr> <tr> <td>・研修参加延人数</td> <td>967人</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>・患者満足度調査結果</td> <td>入院:4.3点 外来:3.7点</td> <td>入院:4.5点 外来4.2点</td> </tr> <tr> <td>・広報誌等発行回数</td> <td>4回</td> <td>19回</td> </tr> </tbody> </table>		(医療センター)	(八幡病院)	・接遇研修回数	2回	0回	・研修参加延人数	967人	0人	・患者満足度調査結果	入院:4.3点 外来:3.7点	入院:4.5点 外来4.2点	・広報誌等発行回数	4回	19回	3	3	○受付・診療の待ち時間の短縮への取組みのほか、多職種介入による入退院支援体制の強化や、パンフレットやホームページを活用した積極的な情報発信を行うなど広報機能を強化しており、年度計画を順調に実施していることから、評価「3」とした。						
	(医療センター)	(八幡病院)																							
・接遇研修回数	2回	0回																							
・研修参加延人数	967人	0人																							
・患者満足度調査結果	入院:4.3点 外来:3.7点	入院:4.5点 外来4.2点																							
・広報誌等発行回数	4回	19回																							
(2) 地域医療機関等との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>●医療機関にヒアリングやアンケートを実施</li> <li>●紹介実績データの整理、PRツールの拡充、ヒアリングやアンケートによるニーズの把握など、院内の営業戦略を検討するチームが中心となり、外部コンサルの支援も受けながら取組みを推進</li> <li>●地域医療機関との信頼関係構築による紹介率・逆紹介率の向上</li> <li>●各病院において、紹介患者の優先的な対応や医療従事者向けの研修会の開催</li> <li>●医療提供機能の相互(医療センターと八幡病院)支援の充実に向けて、多職種における人事交流</li> <li>●各病院の専門分野において、相互に優先的な患者紹介</li> </ul> <table border="1" data-bbox="415 1071 1825 1281"> <thead> <tr> <th></th> <th>(医療センター)</th> <th>(八幡病院)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・紹介率</td> <td>84.1%</td> <td>79.1%</td> </tr> <tr> <td>・逆紹介率</td> <td>95.3%</td> <td>96.9%</td> </tr> <tr> <td>・共同利用件数(高額医療機器)</td> <td>1,327件</td> <td>737件</td> </tr> <tr> <td>・共同利用件数(開放病床)</td> <td>68件</td> <td>48件</td> </tr> <tr> <td>・地域医療従事者研修実施回数</td> <td>11回</td> <td>25回</td> </tr> <tr> <td>・登録医療機関件数</td> <td>636件</td> <td>245件</td> </tr> </tbody> </table>		(医療センター)	(八幡病院)	・紹介率	84.1%	79.1%	・逆紹介率	95.3%	96.9%	・共同利用件数(高額医療機器)	1,327件	737件	・共同利用件数(開放病床)	68件	48件	・地域医療従事者研修実施回数	11回	25回	・登録医療機関件数	636件	245件	4	4	○新型コロナウイルス感染症の影響により活動が制限される中、営業戦略の見直しや返書管理の徹底等により、 ・紹介患者数は [医療センター R1:10,613件→R2:10,816件→R3:11,833件 八幡病院R1:6,561件→R2:8,432件→R3:6,790件]と医療センターが増加、 ・紹介率は [医療センターR1:85.2%→R2:85.1%→R3:84.1%、 八幡病院R1:63.6%→R2:77.0%→R3:79.1%]と八幡病院が増加、 ・逆紹介率は [医療センターR1:81.3%→R2:96.2%→R3:95.3%、 八幡病院R1:82.3%→R2:110.0%→R3:96.9%] と推移しており、地域の医療機関等との連携促進に向けた取組みが進展している。 ○医療センターと八幡病院の連携も進んでいることから、評価「4」とした。
	(医療センター)	(八幡病院)																							
・紹介率	84.1%	79.1%																							
・逆紹介率	95.3%	96.9%																							
・共同利用件数(高額医療機器)	1,327件	737件																							
・共同利用件数(開放病床)	68件	48件																							
・地域医療従事者研修実施回数	11回	25回																							
・登録医療機関件数	636件	245件																							
第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置																									
1 収入増加・確保対策																									
(1) 病床利用率の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>●目標数値の設定、達成状況の確認や原因分析など、目標管理の徹底</li> <li>●新型コロナ患者の増減に合わせて一般病床を増減させるなど、柔軟な見直しを実施</li> <li>●救急患者の積極的な受入れや体制強化</li> <li>&lt;医療センター&gt;4月に救急部を開設、10月に救急科を標榜するなど、体制強化を実施</li> <li>&lt;八幡病院&gt;循環器内科医の確保を最重要課題とし、大学医局への働きかけに努め、令和4年度から3名の派遣を決定</li> </ul> <table border="1" data-bbox="415 1648 1825 1837"> <thead> <tr> <th></th> <th>(医療センター)</th> <th>(八幡病院)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・病床利用率(全体)</td> <td>73.1%</td> <td>67.1%</td> </tr> <tr> <td>・病床利用率(感染症・周産期除く)</td> <td>87.2%</td> <td>-----</td> </tr> <tr> <td>・外来患者数</td> <td>260,569人</td> <td>107,882人</td> </tr> <tr> <td>・入院患者数</td> <td>139,177人</td> <td>76,405人</td> </tr> <tr> <td>・手術件数</td> <td>3,599件</td> <td>1,997件</td> </tr> </tbody> </table>		(医療センター)	(八幡病院)	・病床利用率(全体)	73.1%	67.1%	・病床利用率(感染症・周産期除く)	87.2%	-----	・外来患者数	260,569人	107,882人	・入院患者数	139,177人	76,405人	・手術件数	3,599件	1,997件	3	3	○新型コロナウイルス感染患者の増減に合わせた柔軟な病床見直し、ベッドコントロールの効率化など、コロナ禍での稼働率向上に向けた取組みを行った。 ○この結果、各病院において、病床稼働率が昨年度より上昇したことは評価できるため、評価「3」とした。 ○さらに、病床稼働率の目標が達成できるよう期待する。			
	(医療センター)	(八幡病院)																							
・病床利用率(全体)	73.1%	67.1%																							
・病床利用率(感染症・周産期除く)	87.2%	-----																							
・外来患者数	260,569人	107,882人																							
・入院患者数	139,177人	76,405人																							
・手術件数	3,599件	1,997件																							

項目	令和3年度の主な取組、成果等	機構 評価	市 評価	市評価コメント								
(2) 適切な診療報酬の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>●診療報酬制度や医療事務等の専門的知識や経験を有する人材を中心にプロパー職員の採用</li> <li>●新規採用職員研修や階層別研修を実施したほか、各病院において院内教育やWeb研修受講を推進</li> <li>●診療報酬請求に精通した職員の確保・育成、査定結果の分析や対策に関する勉強会を開催</li> <li>●施設基準の積極的な取得、医学管理科・リハビリテーション科の算定率向上に努め加算による増収</li> </ul> <p>&lt;医療センター&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病理診断管理加算Ⅰなど、新たに8件の施設基準を届出</li> <li>・加算による増収額は、前年比+1.4億円(独法化後の累計は+3.3億円)</li> </ul> <p>&lt;八幡病院&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医師事務作業補助体制加算1(20対1)など、新たに10件の施設基準を届出</li> <li>・加算による増収額は、前年比+1.7億円(独法化後の累計は+2.9億円)</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>●未収金の発生防止に向けた既存の対策を徹底するとともに、新たな未収金回収策の導入に向けた検討</li> </ul> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center;">(医療センター)</td> <td style="text-align: center;">(八幡病院)</td> </tr> <tr> <td>・市派遣職員比率 40.7%</td> <td>46.2%</td> </tr> <tr> <td>・査定減比率 0.43%</td> <td>0.33%</td> </tr> <tr> <td>・医療費徴収率 99.7%</td> <td>99.7%</td> </tr> </table>	(医療センター)	(八幡病院)	・市派遣職員比率 40.7%	46.2%	・査定減比率 0.43%	0.33%	・医療費徴収率 99.7%	99.7%	4	4	<p>○適切な診療報酬の確保に向け、専門的知識や経験を有する人材の採用など、年度計画に基づいた取組みを順調に実施している。</p> <p>○その成果として、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな施設基準の届出数は[医療センター8件、八幡病院10件]</li> <li>・市派遣職員比率は[医療センターR1:65.5%→R2:45.5%→R3:40.7%、八幡病院R1:87.5%→R2:66.6%→R3:46.2%]、</li> <li>・査定減比率は[医療センターR1:0.75%→R2:0.73%→R3:0.43%、八幡病院R1:0.46%→R2:0.33%→R3:0.33%]、</li> <li>・医療費徴収率は[医療センターR1:99.7%→R2:99.6%→R3:99.7%、八幡病院R1:99.7%→R2:99.7%→R3:99.7%]</li> </ul> <p>と成果を上げているため、評価「4」とした。</p>
(医療センター)	(八幡病院)											
・市派遣職員比率 40.7%	46.2%											
・査定減比率 0.43%	0.33%											
・医療費徴収率 99.7%	99.7%											
2 経費節減・抑制対策												
(1) コスト節減の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>●調達部門の専任職員が中心となり医薬品や診療材料の調達コスト削減</li> <li>●機器購入時の保守複数年一体契約のほか、損害保険の活用など、保守金額の削減に向けて選択肢の幅を広げた</li> <li>●医薬品や診療材料の調達について、全国規模の共同購入組織への参画を開始、個別の価格交渉を徹底</li> <li>●後発医薬品について、診療報酬の加算が得られるよう、切換えを随時実施</li> <li>●両病院の委託契約の一本化を推進</li> <li>・後発医薬品採用率 医療センター91.4% 八幡病院86.4%</li> </ul>	4	4	<p>○調達部門への専任職員の配置、契約制度や業務委託の見直しなどへの取組みが進んでおり、後発医薬品採用率について、医療センターは91.4%で、令和5年度の目標値90.0%を達成し、八幡病院も86.4%と目標値に近いことから、評価「4」とした。</p>								
(2) 医療機器等の有効活用及び計画的な整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>●高額医療機器を有効活用するため、新規購入検討時に、共同利用の可否の判断となる稼働状況の把握</li> <li>●各病院の臨床工学課において機器の中央管理を行うとともに、一部修繕の内製化を実施</li> <li>●中長期的な収支見通しを踏まえて、基礎となる個別機器の更新年度・購入費・保守費の調査・整理を実施</li> <li>●令和10年度に両病院の電子カルテを共通化、令和3年度に八幡病院の更新を実施、令和5年度の医療センターの更新検討</li> </ul>	3	3	<p>○両病院の電子カルテの共通化の検討を進め、医療機器等の中長期的な新規導入・更新計画の作成に向けた基礎調査を実施するなど、年度計画を順調に実施していることから、評価「3」とした。</p>								
3 自立的な業務運営体制の構築												
(1) マネジメント体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>●コロナ禍における医療面・経営面の課題への迅速な対応のほか、コロナ後の黒字化の実現に向けた経営再建の取組みを推進するため、経営戦略会議を開催</li> <li>●機構幹部職員で構成する経営本部会議を毎月開催し、病院経営に関する重要事項や経営状況の情報共有</li> <li>●工程表を作成して進捗を管理したほか、月次決算によって毎月の目標達成状況等を情報共有</li> <li>●機構本部の組織体制を見直したほか、病院経営に精通した民間人材を登用、医療コンサルタントを活用</li> <li>●機構本部広報担当ラインと両病院が連携し、これまでの実績・取組みを基にした集患につながる広報戦略を検討</li> <li>●理事長・院長等による部門別の経営ヒアリングを実施</li> </ul>	4	4	<p>○「経営戦略会議」の定期的な開催や病院機構本部に経営戦略課を新設し組織体制を見直すなど、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける中、医療面・経営面での対策を迅速に実施した。理事長のリーダーシップの下、主体的かつ機動的な意思決定システムが構築され、マネジメント体制を確立してきたことから、評価「4」とした。</p>								
(2) 職員の経営意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>●職員向け広報誌の発行や経営状況説明会を開催</li> <li>●診療科別ヒアリングや経営状況説明会を実施、職員の意見や提案を聴取するための取組みを実施</li> </ul>	3	3	<p>○職員向け広報誌の発行や経営状況説明会の開催等に取り組むなど、年度計画を順調に実施しているため、評価「3」とした。</p>								
(3) 法令・行動規範の遵守等	<ul style="list-style-type: none"> <li>●法令・行動規範の遵守に向けて、内部規定の運用や職員研修を実施</li> <li>●ハラスメント対策専門官による相談や弁護士による外部相談を受けるとともに、職員向けの啓発や研修を実施</li> <li>●不正防止対策に向けて、不祥事防止・ハラスメント研修を実施、内部統制の強化に向けて、情報セキュリティポリシーを改定</li> </ul>	3	3	<p>○内部規定の整備をはじめ、ハラスメント対策専門官の配置などに取り組むなど、年度計画を順調に実施していることから、評価「3」とした。</p> <p>○不祥事防止対策に向けて、内部統制の強化を期待する。</p>								
4 職場環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「働き方改革研究会」の提言を踏まえ、年度計画に基づく取組を進めた</li> <li>●医療スタッフの負担軽減のため、医師事務作業補助者及び病棟クラーク配置</li> <li>●手当の拡充のほか、看護職の変則2交代などの柔軟な勤務形態導入に向けて、課題となっている夜勤体制の現状分析等を実施</li> <li>●医師に、診療実績などの病院経営に対する貢献度を適正に評価し、評価結果を給与に反映させるインセンティブ制度を導入</li> <li>●職員研修計画に基づき、新規使用職員研修や階層別研修を実施</li> <li>・看護師離職率 医療センター7.3% 八幡病院7.8%</li> </ul>	4	4	<p>○「働き方改革研究会」の提言を踏まえ、医師・看護師等の負担軽減や時間外勤務の削減、特殊勤務手当の拡充などに取り組んでいる。看護師の離職率については、医療センター7.3%、八幡病院7.8%と、両病院とも令和5年度の目標(8.1%以下)を上回っている。</p> <p>○柔軟な勤務形態の導入に向けた検討やデジタル化の推進にも取り組み、職場環境の充実が図られていることから、評価「4」とした。</p>								

項目	令和3年度の主な取組、成果等	機構 評価	市 評価	市評価コメント
<b>第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置</b>				
<b>1 財務基盤の安定化</b>				
ア 政策医療を着実に提供しつつ、地方独立行政法人制度の特長を活かした効率的な病院運営を行うことにより、財務基盤を安定化させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●月次決算等による経営情報の把握、部門別の課題の分析、経営課題、経営情報の共有</li> <li>●工程表作成による進捗管理、毎月の目標達成状況等を情報共有</li> <li>●目標達成に対するインセンティブとして、診療実績などの病院経営に対する貢献度合を適正に評価し、評価結果を給与に反映させるインセンティブ制度を医師に導入</li> </ul>	3	3	<p>○効率的な病院運営を推進するため、月次決算等による経営情報の把握や目標管理による手法の導入、経営再建方針に基づく取組みの進捗状況等の情報共有を実施するなど、年度計画を順調に実施していることから、評価「3」とした。</p> <p>○令和4年度についても、財政基盤の安定化に向け経営課題を明確にし、中期計画や年度計画の取組みを着実に進める必要がある。</p>
イ 中期目標期間における営業収支及び経常収支の黒字化を実現する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●国・県からの新型コロナウイルス補助金や、市からの運営費負担金により、2期連続で営業収支及び経常収支の黒字化を実現</li> <li>●経営再建方針に基づき、地域連携や救急による患者増、加算による単価増などの収益増加のほか、医薬品・診療材料・医療機器等の価格削減、委託の見直しなどの費用削減に取り組み、経営体質の改善に努めた</li> <li>・営業収支 19.7億円(予算比+10.0億円)</li> <li>・経常収支 20.9億円(予算比+10.4億円)</li> <li>・営業収支比率 法人全体106.5% 医療センター107.2% 八幡病院111.9%</li> <li>・経常収支比率 法人全体106.9% 医療センター107.4% 八幡病院112.2%</li> </ul>	3	3	<p>○営業収支及び経常収支の黒字化は達成できているが、新型コロナウイルス感染症に関する国・県の補助制度の影響が大きいため、評価「3」とした。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症に関する国・県の補助制度が廃止や縮小となる場合を見据えて、引き続き、自立的な経営に向けた体質改善を進めていく必要がある。</p>
ウ 大規模な設備投資等に伴う資金の借入れや返済等、長期的な資金収支の均衡を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●新型コロナウイルスに関する国・県の制度活用と独自の経営改善による、営業収支及び経常収支及びの黒字化に伴い、単年資金(実質)収支がプラスになるとともに、年度末資金剰余も増加</li> <li>・単年度資金収支 8.1億円(予算比+6.4億円)</li> <li>・年度末資金剰余 45.5億円(予算比+6.4億円)</li> </ul>	3	3	<p>○新型コロナウイルス感染症に関する国・県の補助制度の影響が大きいが、単年度資金収支が黒字化し、年度末資金剰余も増加したことから、評価「3」とした。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症に関する国・県の補助制度が廃止や縮小となる場合を見据えて、引き続き、自立的な経営に向けた体質改善を進めていく必要がある。</p>
2 運営費負担金のあり方	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市からの運営費交付金が国の基準に基づいて適切に交付されるよう、市と協議</li> <li>・令和3年度の運営費負担金の実績 総額 33.9億円(内訳)</li> <li>・感染症医療 1.3億円</li> <li>・周産期医療 5.3億円</li> <li>・小児救急を含む救急医療 15.1億円</li> <li>・看護師養成費 0.6億円</li> <li>・院内保育所運営費 0.5億円</li> <li>・企業債元利償還金 7.6億円</li> <li>・基礎年金拠出金 3.5億円</li> </ul>	3	3	<p>○運営費負担金を適切に執行していることから、評価「3」とした。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、令和2年度は市が補正予算を計上し、運営費負担金を追加したことから、前年度より減額となっている。</p> <p>○中期計画では、運営費負担金については、法人としては経営効率化の観点から可能な限り自立した経営を目指すこととされており、令和5年度までの運営費負担金の規模感について検討する必要がある。</p>
<b>第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置</b>				
1 看護専門学校の運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>●臨床看護及び教育の質の向上に向けて、看護教育人材の確保、教育環境の整備、学習教材の充実などの取組みを進めた</li> <li>●学校施設・設備・教材を機構本部・医療センターに貸し出したほか、オープンキャンパスを実施</li> <li>●卒業生の市内就職率の向上に向けて就職説明会等での働きかけや、卒業生へのフォローアップとして個別相談対応を実施</li> <li>●実費負担であった「実習費」を教材や消耗品の費用も加えた定額の「実習関連費」に改め、令和4年度入学生から徴収</li> <li>●卒業生の市内就職率向上</li> <li>・卒業生の市内就職率 100.0%</li> </ul>	4	4	<p>○卒業生の市内就職率が100.0%と、令和5年度の目標83.6%を上回っており、地域の看護師養成機関として、教育の質を確保しつつ効率的な運営を行っていることから、評価「4」とした。</p>
2 施設・整備の老朽化対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>●災害対策を含め、医療センターの老朽化対策について、基本方針と設備改修計画を策定</li> <li>照明のLED化、空調やコジェネレーションシステムの改修等、必要最低限の改修を令和3～9年度で11億円かけて実施</li> </ul>	3	3	<p>○医療センターの基本方針と設備改修計画を策定していることなどから、評価「3」とした。</p> <p>○医療センターの老朽化対策については、引き続き、調査・検討を進めていただきたい。</p>
3 市政への協力	<ul style="list-style-type: none"> <li>●北九州市との緊密な連携体制の構築に向けて、市が進める保健・医療施策について積極的な役割を果たした</li> <li>●新型コロナウイルス対策について、市からの要請に基づき、市との連携の下、市内医療機関の中心的な役割を果たした</li> <li>●経営戦略会議へのオブザーバー参加のほか、定例会議を実施するなど、緊密に意見交換を実施</li> <li>●外部医療従事者やかかりつけ患者に他するワクチン接種のほか、集団接種や職域接種への医師・看護師の派遣を実施</li> </ul>	5	5	<p>○新型コロナウイルス感染症対策では、市からの要請に基づき、市との連携の下、積極的な対応を行い、市内医療機関の中心的役割を担ったことから、評価「5」とした。</p>